

## げんざい かいしゅう 現在も行われている改修工事

昭和62年（1987年）に鴨川の東岸を走る京阪電車と琵琶湖疏水を地下に通す工事が、50年ぶりに完成しました。これを受け平成4年（1992年）から平成11年（1999年）にかけて三条～七条間の改修工事がすすめられました。あわせて、しだれ桜など河川敷の花や木を見ながら散策することができる「花の回廊」整備も行われました。

現在も、七条大橋から桂川合流部では、川底を掘り下げるなどの改修工事が行われています。あわせて、鳥羽大橋下流では、護岸の傾斜を緩くするなどし、川に近づきやすくした「水とのふれあい回廊」整備、鳥羽大橋から御池大橋では、芝生植栽などの緑を楽しみながら散策ができる「緑の回廊」整備が行われています。また、高水敷をつなげて、ジョギングやウォーキングに利用できるようにする事業も行われています。

「緑の回廊」整備 御池大橋～三条大橋



## みそそぎ川

大正時代に行った工事で、鴨川の中州が取り除かれ、流れが速くなったことから、床几の床（高さの低い床）が禁止になりました。同時に西側に高水敷<sup>※1</sup>を作る計画が持ち上がりました。

しかし、高水敷ができると納涼床ができません。このためまちの人々の要望により、人工水路の「みそそぎ川」が整備されました。みそそぎ川の由来は、古くから鴨川そのものが「みそぎ」をする川であり、そこからきているのではといわれています。

現在では、夏になると「みそそぎ川」の上に納涼床がならび、多くの人々で賑わいをみせています。

※1 高水敷・・・川底から見て一段高くなっているところで、ふだんは散歩などに使われるが、洪水時にはここにも水が流れる。



## 1 親しまれる水辺「鴨川」

鴨川は、京都のまちに潤いを与え、訪れる人の心をなごませる貴重な水辺であり、わたしたちが気軽に水に親しむことのできる河川です。鴨川の中流部は都市公園になっており、散策やジョギング、イベントなど、年間約300万人の人々が鴨川を利用しています。

春には「半木の道」の八重紅枝垂桜や、「花の回廊」のさまざまな花木、夏には「納涼床」、秋の紅葉や冬のユリカモメなど、季節を感じながら、水辺を楽しむことができます。



鴨川茶店



鴨川納涼

鴨川にも、家庭や工場などからの排水が流れ込んでいたりゴミが捨てられるなどして汚れていた時代がありました。なかでも、染色工場からの排水は、染料を含んだまま鴨川に流れ込み、川の水を紫色に染めていました。しかし、現在では、工場などの排水をきれい



昭和40年4月11日の新聞記事  
出典:朝日新聞



市民による鴨川美化活動



にする努力や、下水道の整備、川をきれいにする市民活動などによって、

人口140万人を超える大都市にありながら良好な水辺の環境が保たれています。